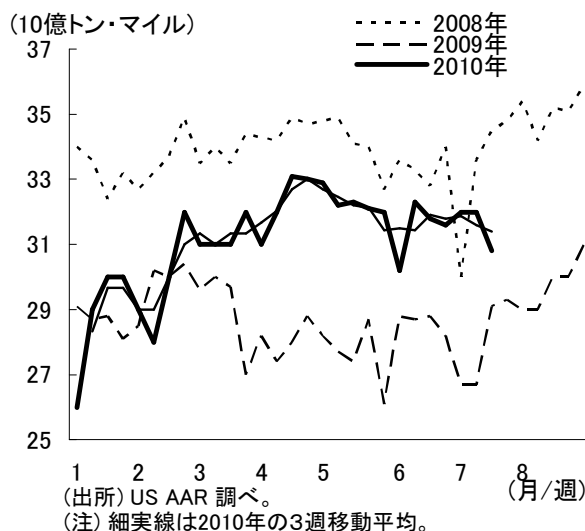


米国経済に変調の兆し

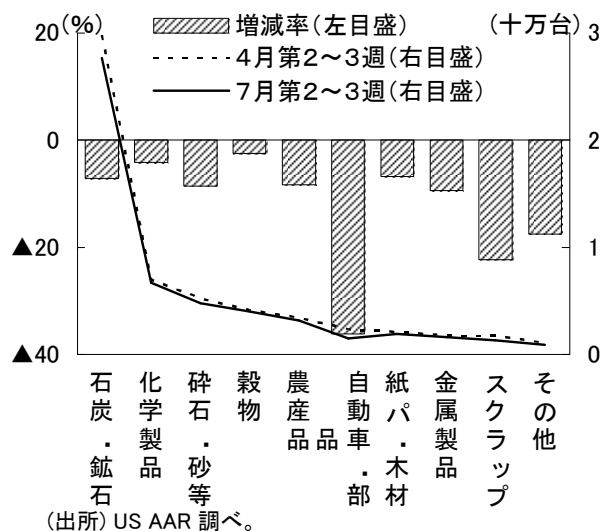
～ 物流・販売動向に翳り ～

- (1) 米国の鉄道貨物輸送量は昨年8月以降、次第に復調。しかし、本年4月半ば以降、週毎に増減を繰り返しつつも、趨勢的にみると減少傾向（図表1）。本年ピークの4月第2～3週と直近の7月第2～3週で対比してみると、大半の分野で減少（図表2）。とりわけ自動車の落ち込みが顕著。
- (2) 変調の兆しは卸小売・製造業の販売動向でも看取（図表3）。最新値は卸売業と製造業が5月、小売業でも6月であり、現時点で確定的な評価は困難であるものの、いずれも4月をピークに減少の兆し。
- (3) 6月までデータが公表されている小売業について、本年ピークの4月と直近の6月を対比して分野別売上動向をみると、自動車と並び建材の落ち込みが顕著（図表4）。本年4月に行われた住宅販売促進策の打ち切りも作用。それらに対して、通販関連は増加。背景には、店舗に行く必要が無く、価格も割安なネット販売の利用が全米各地で拡大。
- (4) 昨年2月に打ち出された景気対策の効果が今後、マイナスに作用すると見込まれるなか、米国経済の先行き不透明感払拭は当面期待薄の公算。

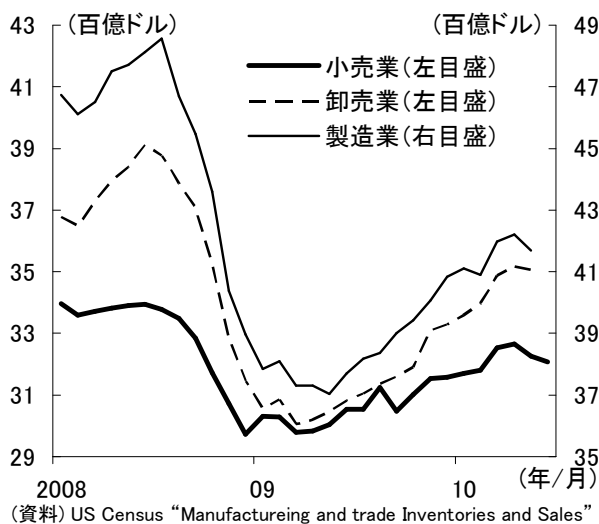
（図表1）鉄道貨物輸送量の推移



（図表2）鉄道貨物輸送量の品別変化



（図表3）卸小売・製造業売上高の推移（季調済）



（図表4）小売業売上高の分野別変化（季調済）

